

総務部

部長：松田 進 副部長：加藤 明日子

(1) 今年度の目標

- ① さまざまなPTA活動を通じて学校と家庭との情報交換を密にすることで学校教育と家庭教育の連携を図り、社会的に有意な人格の育成に努める。

- ② 生徒が本校を大切に思う心を育み、母校の歴史・伝統を尊重するとともに、具体的に先輩たちの活躍や活動の事績を学び知り、自分自身の将来の夢や職業的目標を自主的に確立していけるように導く。
 - (1年) 母校の歴史・伝統に触れ、校内の施設を始め、さまざまな人や物を大切に思う心を養う。
 - (2年) 母校の先輩たちの足跡に触れ、調べ、思いをいたすような体験を持つ。
 - (3年) 母校の歴史・伝統を踏まえた上で、自分自身の将来設計、進路目標を具体的に確立していく。

(2) 主な取り組みの計画

① P T A活動

- ・ 「P T Aだより」を通じて、保護者全員に対して、本校生徒の現況と将来的発展的な展望を広報・啓発する。本校の歴史、逸話等の特集するなど保護者にも周知する。
- ・ P T A家庭学級を開き、保護者対象の講演会を実施する。今年度は親と子のコミュニケーションに関する内容とする。
- ・ P T A一日研修の内容を精査し、会員の研修および親睦の場となるよう、計画実施する。

② 同窓会活動

- ・ 「記念館・同窓会館」を中心として、生徒に対して、先輩諸氏の事績や活躍の歴史を広告し、歴史・伝統のある母校での学校生活を送る自覚と誇りを育む。
- ・ 創立記念講演、井上通女墓参等に参加することにより、伝統の重みを実感させるとともに、先輩の活躍を直接聴くことによって生徒各自の人間性の陶冶を促し、将来設計の指針の一助となることを目指す。

(3) 成果

① P T A活動

広報委員会活動による「P T Aだより」67号(7月)と68号(12月)を作成し、1、2学期末の懇談を通じて保護者に配布し、学校の現況などを周知することができた。また、他の委員会活動も例年通り活発に活動でき、家庭学級(講演会)、厚生委員会、ソフトボール大会・ソフトバレーボール大会など、P T Aとして、活発に活動し交流することができた。昨年度に実施できた秋の一日研修は、希望者少数のため今年度は実施できなかった。そこで、12月に研修委員会を開催し、今後どうすべきか話し合った。P T A会長・校長の意見もあり、一定の役割を終えたと考え、次年度以降は実施しない方針を確認した。

② 同窓会活動

今年度も学校行事と連動した、創立記念講演会((6/3)昭49卒、臼杵尚志氏(香川大学医学部附属病院教授))及び座談会を開催できた。「支えること、そして支えられること～山岳診療の体験より～」という演題で山岳医療に関する貴重な話を聞くことができ、生徒たちの自己形成や進路に対する意識を高める一助となり得た。今後とも継続して実施することが望まれる。

(4) 課題と次年度以降の改善策

① P T A活動

来年度もこれまで同様、6つの各委員会活動を中心にして、P T Aの交流・親睦を深め、これまで以上の信頼関係を目指して活動の継続が必要である。

しかし、最近全体の会である実行委員会・合同委員会への出席者が減少している。役員の方に年度当初各委員会の委員候補を出していただく時に会への出席を今までよりも少し強めをお願いしていただくようにして、出席者の増加をお願いする。また学校職員の出席についても、出席の参加を呼びかける。特に実行委員会の時期と回数についても見直す必要がある。家庭学級においてもより興味を持って参加しやすい講師の選定に努める。

② 同窓会活動

今年度は総会に於いて多くの役員交代があった。これまで以上に同窓会活動と学校活動の連携について積極的な取り組みと丁寧な説明が必要と考えている。今年度は同窓会総会及び懇親会の幹事団による運営という方式の実質的最初の試みとなったが、学年幹事団の協力により特に問題なく運営できた。今後さらに同窓会活動の活性化につながるよう努力したい。次年度からは第一体育館建て替えが本格化し、それに伴う緞帳制作の事業も控えており、百二十周年記念事業が継続中であることを肝に銘じておかなければならない。

